

# 宮崎県気候変動適応センター通信 第19号

## 日本の気候変動2020—大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書—

文部科学省と気象庁は、日本における気候変動対策の効果的な推進に資することを目的として、日本の気候変動について、これまでに観測された事実や、「パリ協定の2℃目標が達成された世界」と「現時点を超える追加的な緩和策を取らなかった世界」の将来予測をとりまとめ、令和2年12月4日に「日本の気候変動2020—大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書—」として公表しました。

今回は、その内容について御紹介します。

### 将来予測まとめ

21世紀末の日本は、20世紀末と比べ...

※黄色は「パリ協定の2℃目標が達成された世界」／

紫色は「現時点を超える追加的な緩和策を取らなかった世界」

年平均気温が約1.4℃/約4.5℃上昇



猛暑日や熱帯夜はますます増加し、冬日は減少する。



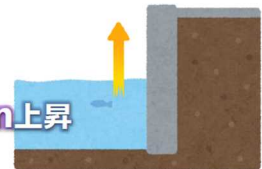
激しい雨が増える

日降水量の年最大値は  
約12% (約15 mm) / 約27% (約33 mm) 増加  
50 mm/h以上の雨の頻度は約1.6倍/約2.3倍に増加



強い台風の割合が増加  
台風に伴う雨と風は強まる

沿岸の海面水位が  
約0.39 m/約0.71 m上昇



日本南方や沖縄周辺においても  
世界平均と同程度の速度で  
海洋酸性化が進行



3月のオホーツク海海氷面積は  
約28%/約70%減少



【参考】4℃上昇シナリオ (RCP8.5) では、21世紀半ばには夏季に北極海の海氷がほとんど融解すると予測されている。

海面水温が約1.14℃/約3.58℃上昇



温まりやすい陸地に近いことや暖流の影響で、予測される上昇量は世界平均よりも大きい。

降雪・積雪は減少

雪ではなく雨が降る。  
ただし大雪のリスクが低下するとは限らない。



〈出典〉文部科学省及び気象庁「日本の気候変動2020（概要版）」をもとに当センター作成

「日本の気候変動2020—大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書—」はこちらから↓

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

宮崎県気候変動適応センター

事務局：宮崎県環境森林部環境森林課 電話：0985-26-7084 E-mail:kankyoshinrin@pref.miyazaki.lg.jp